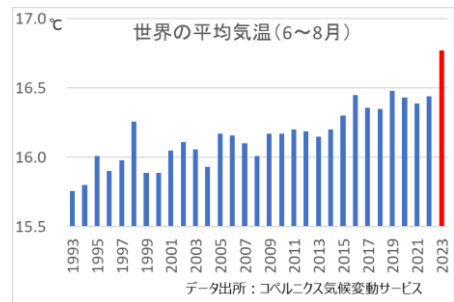


世界的高温、海面水温上昇、永久凍土も溶ける

◆世界的に高温が続き、2023年6～8月は観測史上最も暑かった

2023年9月、EUコペルニクス気候変動サービスは、6月～8月は世界の気温が観測史上最も高い16.77℃だったと発表¹⁾した。過去30年間（1993～2022年）の平均値を0.62℃上回る。15.76℃（1993年）～16.48℃（2019年）の間で概ね上昇基調で推移していたが、23年は19年の最高値を0.29℃も上回った。7月と8月単月では、工業化以前（1850～1900年）より1.5℃高い。国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が来た」と警鐘を鳴らしている。



世界平均海面水温も上昇が続き、8月は20.98℃と平年を0.55℃上回り最高値を更新した。海洋熱波が各地を襲い、南極の海氷面積も観測史上最小を記録した。

今夏はヨーロッパ南部など北半球の多くの地域を熱波が襲い、少雨が重なった地域では、農作物の不作や山火事の被害を招いた。一部の河川は水位が低下した。ドイツでは輸送船の航行に支障をきたし、フランスでは水力発電を抑制、冷却に川の水を使用する原子力発電所も水温が高温となったため発電を抑制した。また、猛暑による冷房費用増加を避けるため工場の休業や、ギリシャの観光名所の古代遺跡では昼間の観光の中止など、事業活動や日常生活にも影響が及んだ。

◆北極圏では永久凍土が溶け出し、転居を迫られる住民、さらなる危険も

北極圏では世界の他の地域よりも4倍の速さで温暖化が進んでいるという。カナダ沿岸の村Tuktoyaktukでは永久凍土層が溶けてたるみ、海岸の侵食により住民が転居を余儀なくされている。永久凍土が溶けることを専門家は「プラグを抜いた冷凍庫」に例²⁾える。細菌が活発化し物質を分解、温暖化ガスのメタンが発生する。このガスの大気中放出による、温暖化加速の可能性も指摘される。

さらに、凍土に封じ込められていた細菌等が解き放たれる懸念もある。7月発表の論文³⁾によると、研究のためシベリアの永久凍土から掘り出された新種の線虫が4万6千年の休眠から目覚めて動き出した。温暖化対策は急務だ。【赤山英子】